

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201039		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホーム あいの街袖師		
所在地	静岡県静岡市清水区袖師141-1		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=2294201039-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成26年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひとり一人が、自分の家だと思えるように、家庭的雰囲気の中で安心して暮らせるよう、ご利用者様のニーズにあわせ、必要なサービスが提供できるよう職員全員で意識し行っています。
出来るだけ残存機能を生かして頂けるよう、「できること」支援が必要な事を職員が情報交換し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長が交替して半年が経過しましたが、前任の取組みを変わらず継承しています。また本年にはいり利用者が全員女性となり、こちらは手芸、暖簾・ピース作りの創作レクリエーションがさらに進化したとの変化がみられます。利用者の性向による言動の違いを職員が上手につなぐことで新しい利用者もスムーズに仲間に入ることができ、またちょっとした競争心や射幸心をくすぐる演出や仕組みも功奏していて、人を見つめる力やリレーション力の高さが覗えます。それもこれも職員の入れ替わりが少ないことが基盤となっており、職員のチームワークの良さが光る事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が笑顔で楽しく暮らしていける様にスタッフ全員で考え、「元気で明るく笑顔ですごす」という言葉を実践できるよう共有している。	対面キッチンの前に掲示されていて、職員の目にはいりやすい場所にあります。個々の利用者によりやすい感がないよう、自主的におこなう雰囲気づくりに苦心しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常の食品の買い物は「タイヨー」「ESPO T」へご利用様と一緒に買い物に出掛けている。地域の溝掃除に参加して交流している。	以前から案内は届いていたものの実現が難しかった側溝の掃除に本年度から参加でき、地域の皆さんに快く受け入れてもらえました。似顔絵ボランティア訪問も続いていて、地域資源が活かされています。	地域の避難訓練に参加が叶い、車椅子や杖歩行の人がいることを知ってもらい機会になることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で利用者様の状況やサービス内容を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催している。利用者様の利用状況、行事の報告、サービス内容等の報告をしている。意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では2ヶ月分の写真を添付することで行事の様子を分かりやすく説明できています。質疑応答の時間を設けているので、民生委員や家族から質問や相談が挙がることもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員の方と話が出来る様に市役所に足を運び、話が出来るようにしている。運営推進会議にも参加してもらい、市からの情報も頂けるようにしている。	本年度から市職員が運営推進会議に参加してくれるようになり、情報が連携に役立つことが見込まれ、心強い体制となりました。介護相談員の受入れを希望していますが、現状はありません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を行っています。それに伴い職員全員が身体拘束をしない方針で取り組んでいる。	身体拘束ゼロ宣言しているものの、スピーチロック的な発言もみられるため課題としています。関係が親しくなるとふさわしくない発言もでてしまうためミーティング時に話し合うことで、「待つ」と言わず「～なので～くらい待ってもらえますか」というように改善が進んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入浴時には新たな傷・内出血など観察している。身体や、本人の行動・言動に注意を払い早期発見できるよう、職員同士情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い権利擁護について理解はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を基に口頭にて説明を行い、疑問点や要望などはその場でお伺いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に定期的に手紙を送り日々の様子などお伝えし、来所時も家族が意見など申しやすいように配慮しています。	居室担当が月に1回、利用状況の報告と運営推進会議の案内を送付していて、後日議事録も届けています。行事で家族を募ったり衣替えを依頼して、時にはケアマネージャーも加わり他職種で聞き取りをしています。	輪番制や行事併設開催…、事業所に合った方法で運営推進会議への家族参加が活性化することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、施設内ミーティングを行っている。その他に研修を行い職員が働きやすい環境づくりと同時に1人1人の能力の向上に努めている。朝礼の際も随時相談や提案ができる環境に努めている。	ミーティングでは事例を通して話し合うことで職員の不安を解消しています。年1回は個人面談をおこない、例えば周囲から口調がきついと言われる職員に対し自己覚知を促すことができたこともあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の身体・精神状態に気を配り、業務に目的を持ちなおかつ向上心を持てる環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を通じて学んだ内容をスタッフ会議で職員に伝え、育成に取り組んでいる。今後も研修の場を提供し、学びを深めていけるように随時取り組んでいけるよう努力したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度の、セクション会議を各施設内でを行い、意見交換などしている。施設会議にも、今後できるだけ職員が参加し、他施設と情報を交換し、サービスの質の向上に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人・ご家族に直接コミュニケーションを図り、サービスの説明などさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護生活での大変さや問題点を家族と共に確認し、情報をたくさん収集し共に考え、信頼関係の構築に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ、アセスメントをしっかりし、必要としているものが何か理解するように努めている。急なご利用などにも速やかに対応できている様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ないところをお手伝いさせて頂くという気持ちで支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族が絆を大切に家族が参加できるイベントを開催して家族との交流が出来る様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の七夕祭りや神社で行われる相撲大会、運動会などにも参加して関係が途切れないようにしている。	近所の方が遊びに来たり、床屋訪問や身近な魚屋利用、地域行事での参加で「久しぶり」と交友を深めることができています。刺繍をする際には、職員の目が届く共用空間の和室を利用して安心して作業できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が時間を作りオセロやトランプなどをやり、楽しい時間を過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人の所に訪問して暮らしの経過を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時、ご本人やご家族に伺い、それに沿ってプランを立てています。利用者様の思いや意向について、気づいたことがあれば、介護記録や申し送りにて記録し、職員共通意識を持つよう努めている。	意欲的に「何かしたい」という利用者が多いため、アセスメントを参考に何が好まれるのかを予測して職員がプログラムを提案しています。例えば動物の話ができれば「好きなのは？」と写真を見せたり連れて来たりして表情の変化で見極めていきます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し、理解に努める。会話からも情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人や家族から情報を得ている。普段と変わった事はないか気を付けてみる。ケアが過剰にならないように残存機能をいかして出来る事は行っていただける様努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・御家族様・必要な関係者を交えて、希望・要望・意向を伺い、意見やアイデアを反映しそれを基に作成している。職員の意見も参考にしている。	ケアマネジャーが中心となり、リーダーや居室担当から意見を聴き、またミーティングでの職員情報を反映して計画を作成しています。計画書は全職員が回覧して内容を確認しており、目標の達成状況は介護記録に記載されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日目の経過記録、排泄・入浴・食事・BPチェックを記録している。気づいた点があれば、スタッフ連絡ノートに記入し、情報交換に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが行えるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れなど豊かな暮らしにつながる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を希望された方は月1回往診を受けられている。その他かかりつけ医の受診を支援している。利用者様の経過を主治医に伝えて、適切な医療を受けられるように支援している。	家族が受診に付き添ってくれているため在宅からのかかりつけ医に継続して受診が叶っています。ただし3名には提携医による月1回の往診があります。必要な場合は家族に加え、職員が同席して医師から詳しい状況を得ることもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1非常勤の看護師がいる。利用者様の状態の変化を報告しながら意見などを聞いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行っている。入院中も面会などにて、病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はいないが、そうなった場合は主治医や家族に話し合いの確認を取っていききたい。施設入居の相談もあり地域にある施設の提供などおこなっている。	重度化した場合「いつまで居られますか？」との家族からの相談もありますが、「医療処置ができないため経口での食事ができる範囲である」ことを説明しています。現在のところどの利用者も健康に過ごせているため、差し迫った終末期の対応はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、応急手当等は、今後勉強会で知識をつけ、実践を行いながら身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定しての避難訓練、普段、利用者様と消火器の使い方と「助けてー」と声が出るように練習している。	年2回、夜間想定を旨めて実施しています。訓練では簡単な操作で消火器が使えるよう、消防署職員によるレクチャーもありました。利用者が大きな声で助けを呼ぶことで、人命救助に役立つことができるようにとの体験もあり参加になりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に高齢者への尊厳の想いを忘れないように心掛けている。人生の先輩として尊厳を忘れず、礼儀や言葉遣いに気を付けるよう心がけてる。介助の1つ1つも尊重した対応を行うよう努力している。	会話の内容を利用者が聞き取り覚えていることもあるため、利用者についての会話は部屋を別にする配慮が慣行されています。職員間での打ち合わせも利用者の前では控えたり、また隠語を使って連絡することもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれの認知症の状態や理解力に応じて、選択肢の増減をもって対応している。尊厳・傾聴に心掛け、押しつけ介護にならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし、本人らしさを尊重している。1日を楽しく過ごして頂けるような配慮を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院のご希望があった際は、地域の美容院さん(訪問美容師)が来訪している。女性らしさを忘れないよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人に食べたい物を聞き1ヶ月に1回「お楽しみ昼食会」とする。できる方とは一緒に買い物、一緒に調理、一緒に片付けなど行う。	旬の食材を利用者と一緒に見て、また手に取って買い物することで季節を感じてもらっています。利用者9人全員女性のため、素材や調理の知識を教えてもらいながら、野菜一つのことでも会話も弾みます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量など毎回チェックし観察している。食事形態もその方に合わせ提供し、出来る限りご自身で召し上がっていただける様に援助している。困難な方においては、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出から戻った時のうがい、毎食後の口腔ケアを行っている。入れ歯の汚れなど、洗浄剤を1人1人持参している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを理解し、時間にとられず、声掛けや一部介助・見守り等を行っている。	ハターンを把握し、声掛け誘導をおこなっています。拒否する利用者もいるため、「もうすぐ食事の時間ですよ」と、自然な流れをつくっています。退院直後は紙パンツを着用していることがあるため、パット利用で自立移行につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や水分を多く摂取してもらう等対応している。今後職員の知識向上に努め、便秘予防、便秘解消の体操や食事メニューの工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は必ず行えるようしている。ご利用者様のその日の体調や気分に沿った支援をしている。体調不良にて入浴できない場合には、随時変更もしている。	人毎に湯を張り替えていて、入浴剤を数種類用意し「今日は〇〇の湯ですよ」と楽しみが連想される工夫があります。職員が横について、肩に湯をかけながらじっくりと話を聴くことが定番です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態や体調に応じて、随時休息してもらえる環境にある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、職員に情報・説明を行っている。内服の変化がある場合には理由・内服の目的などの説明も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、食事の支度(準備や簡単なもの) 食器の洗い上げや食器拭きをしたり、洗濯物をたたんだりして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご利用者様の体調に合わせて買い物に行ったり、神社へ散歩に出かけている。散歩の途中で花を摘んだり近所の子供たちと触れ合い笑顔が見られたりしている。	動物園をはじめ、定期的に外出レクリエーションを企画しています。職員の配置都合により毎日の外出は叶わないものの、対応できるときに散歩したり、近隣での買い物に同行しています。1日1回は屋外で外気浴を続けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心する利用者様もいます、本人の管理で所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話をしたい」と希望されるご利用者様、携帯電話を持参されるご利用者様には、落ち着いた環境を整えて、見守りながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真や利用者作成の掲示物など飾り付けている。 共有空間では生活しやすい(過ごしやすい)工夫している。	行事での親子一緒の写真には誰もが元気をもらえます。「2020年オリンピック」との創作物もあり、時事にも関心をもってもらいたい想いが伝わります。壁紙の写真は忘れないように数日のうちに掲示し、会話の話題になるようにとの支援もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人の状態やペースを把握し、レクなどの内容によって席の移動をしたり、ご本人の希望も含め居場所づくりを考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況などに合わせて、居室をご用意させて頂いている。畳を使用している人もいます。本人の使い慣れたものをご家族が用意し自宅の環境となるべく同じように工夫させて頂いている。	居室前の表札には担当職員氏名も併記されていて家族のような印象が残ります。ゴミ箱の管理を重点におき、毎日の掃除機がけがおこなわれ清潔に保たれています。観葉植物を育てている居室も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の導線に邪魔にならないような物を置かない工夫をしている。なるべくご自分で日常生活が営めるよう援助させていただいている。危険物は目の届かない所に保管している。		